

「チャレンジする中小企業アシストする中小企業診断士」

診断かがわ

2016年 新春号 NO. 66号

(2016年1月14日発行)

【目次】

- ◆ 新年のごあいさつ・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 「理論政策更新研修」報告・・・・・・・・ 3
- ◆ 四国ブロック「スキルアップ研修2015」 4
- ◆ 「管理者課題別研修：財務力」・・・・・・・・ 5
- ◆ 「四国ブロック会議」in 徳島・・・・・・・・ 6
- ◆ 「経営コンサルタント養成講座」・・・・ 7
- ◆ 新入会員自己紹介・・・・・・・・・・ 8
- ◆ プロフェッショナル人材戦略拠点・・・・ 9



「異業種交流管理者基礎研修」

(2015年9月12～13日)

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

TEL/ 087-814-6456 FAX/ 087-840-0321

メール mail8@shindan-kagawa.org

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org>

〒761-0301 香川県高松市林町 2217-15 香川産業頭脳化センター402



新年のごあいさつ

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会長 山下 益明

新年あけましておめでとうございます。平素は協会活動に多大なるご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、身近な暮らしの変化について振り返ってみますと、昨年からマスコミでも話題となっている「消費税率引き上げ」問題が思い浮かびます。2017年4月実施予定となっておりますが、前回の消費税率8%実施の際、駆け込み需要が顕著だったことが記憶に新しいでしょう。導入後はその反動により、大きく消費が減退し、景気回復に時間を要しました。この問題は、お客さま企業(顧客)によっては、売上・経営状況へ直接ダメージを与える可能性が大きいかもしれません。

このような社会・経済環境の変化により生じる問題への対応。あるいは、高い目標を掲げたことによる現状とのギャップなど、顧客はさまざまな課題を抱えています。

そこで年頭の言葉として、**中小企業診断士が課題解決をサポートする際に求められる“パラダイムシフト”**について述べさせていただきます。

◆パラダイムシフトとは、

「思考や概念、規範や価値観が枠組みごとに移り変わることをいいます。「発想を転換させる」、「物事の見方を変える」、「既存概念を捨てる」、「業界の常識を疑う」などから始まり、「斬新なアイデアによって世の中を変革させる」まで、さまざまな意味で使われています。要するに、今までの概念がくつがえされるようなマインドの変化のことです。

診断士が顧客の課題解決をサポートするケースにあてはめてみます。
通常は以下の流れとなるでしょう。

- ① 経営状態の「現状」(事実前提)を把握・認識(診断)
- ② 「あるべき姿」を設定
- ③ 「現状」と「あるべき姿」のギャップを経営課題とし実行すべき施策をサポート

ここで②「あるべき姿」について、一般的には顧客の思い描く「当たり前レベル」の将来イメージを形にすることが多いものです。この方法は残念ながら、現状の延長線上で少し上にある域に留まります。

一方、プロの診断士として「あるべき姿」を顧客と一緒に考えるならば、**より美しく・より高く・よりはっきりとした「さらに高次元の あるべき姿」**を導き出す必要があります。その契機となるのが、診断士が起こす“パラダイムシフト”なのです。



◆なぜ、パラダイムシフトが必要なのでしょうか？

顧客が現状のまま、凝り固まった概念や価値観のみでさまざまな判断をし続けると、「都合のいいこと」「居心地のいいこと」「楽なこと」等だけを選択し続けます。その結果、企業の成長・発展につながらず、あらゆるチャンスを逃し続けてしまうからです。

パラダイムシフトにより「あるべき姿」を新たな価値観・概念で考えることが、結局は新しい物事へのチャレンジや成長を引き起こしているといえます。

【ビジネスにおけるパラダイムシフトの一例】

(1) 経営者

- ① 経常利益率 10% (通常の業界) 以上 & 経常利益 1 億円以上 → 結果指標
利益率の低い業界は上位 7% 以内 (相対評価時代の通知表で、5 段階評価の「5」)
- ② 実質無借金 (金融機関に返済しようと思ったら、いつでも返済できる状態)
& 投資は主に内部留保から (融資はプラス α)

(2) 社員

- ① 「会社は道場」 → 働くことで仕事力を高める
- ② 仕事を通して成長し、成功をつかみ幸せになる

◆どのようにパラダイムシフトを起こすのか

パラダイムシフトは外から刺激 (異なった価値観との出会い) を与えられ、その刺激が自分の中で腹に落ち、納得できた時に起こります。そこでパラダイムシフトを意図的に起こすには、「異なった価値観との出会いの場」をできるだけ多く作ることが求められます。

この「出会いの場」を創出する役割を担うのが、われわれ中小企業診断士です。

診断士は多岐にわたる経営課題に対処する際、顧客に対して意図的にパラダイムシフトを起こすことが期待されています。

またこれは、顧客に対するご支援の根底に流れる、診断士の使命ともいえます。

「診断士のサポートなしにパラダイムシフトを起こし、課題解決できますか？」という問いかけに対し、顧客から「当社だけで課題解決する自信がありません」という返答があれば、「では、サポートさせていただきませんか？」という関係構築につながります。

顧客に新たな気づき・価値観・概念を芽生えさせ、今まで一度もやったことのない方法に勇気をもってチャレンジし続けるようサポートをする…これが、プロの診断士が起こすパラダイムシフトの醍醐味ともいえます。

そこで本年は、独立診断士・企業内診断士の別を問わず、パラダイムシフトを起こすことで新たな価値観・概念を生み出し、斬新なアイデアによって世の中を変革させるレベルを目指したいと考えます。

以前よりお伝えしておりますが、経営コンサルタントの本質は、「周りから必要とされ、役に立ち、認められることで、世の中を良くする！」ことと認識しております。当協会は、「成長し続ける本物の経営コンサルタントを目指そう！」をスローガンに、「お客さまへのお役立ち度を高めることに焦点を絞るプロコンづくり」に真剣に取り組んでいます。

本物の経営コンサルタントとして必要な「人間力」「商品力」「営業力」そして「パラダイムシフトを起こす能力」を高める機会を数多くご提供することで、本年も皆さまのお役に立つとともに、当協会の存在意義を高めていきたいと存じます。

皆さまには、入会のメリットを享受していただくためにも、当協会よりご案内する行事については、ぜひとも優先順位を高めてご参加いただきたいと思います。

引き続き、会員の皆さま方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆さま方のますますのご健勝とさらなるご活躍を祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

2015年度「理論政策更新研修」報告

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
理事 梅澤 秀樹

2015年9月5日(土)、「理論政策更新研修」がサンポートホール高松にて開催されました。香川県内の診断士をはじめ、近県の方々が多数参加され、会場も大変な熱気でした。

今回のテーマは2つ。第一部は四国経済産業局産業部中小企業課長の和仁さまから最新の中小企業施策のお話を、そして第二部は楊 楽陽 氏(上海楽風企業管理有限公司 代表)を講師に迎え、「中国事業再編の現場から見る中国ビジネスのリスクとチャンス」について伺いました。

第一部「新しい中小企業施策について」では、最新かつ詳細な資料を基に中小企業・小規模事業者をめぐる現状として、①都道府県別の企業規模別の従業者割合、②開業率、廃業率の推移などの実態の説明をいただきました。

また通常国会提出法案のコンセプトは、地域の経済・雇用の担い手である中小企業・小規模事業者の持続的な発展のための環境整備であることを実際の政策に基づきご講義いただきました。そのほか、小規模企業振興基本法の概要説明、目に見える施策として「よろず支援拠点」や「事業引継ぎ支援センター」の説明等もありました。

改正税制や地域における金融の状況等については、中小企業診断士として必要な最新の情報を身につけることができました。

今回のテキストは参考資料としても大変役に立つものであり、我々中小企業診断士は、ご相談をお受けする事業者さまに対するアドバイスについて、これらのお話を基に的確に対応していきたいと考えます。

第二部「中国事業再編の現場から見る中国ビジネスのリスクとチャンス」では、楊 楽陽氏が中国において実体験された案件がふんだんにありました。我々では考えられないような事例で、海外ビジネスの怖さや対応のポイントを知る好機となりました。

中国独自の特色としては、①時代が変わった、昔の感覚では対応できない ②縦割り行政という再認識が必要 とのことでした。

また普遍的と考えられることとして、

「直感的におかしい(納得できない)ことはやはり、どこかおかしい」など、共感させられる内容でした。多くの事例に触れ、とても参考になる研修でした。



研修の様子

四国ブロック「スキルアップ研修 2015」

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 中井 由郎

一般社団法人 中小企業診断協会本部主催の「スキルアップ研修」が、2015年9月26日(土)～27日(日)に香川県観音寺市「かんぽの宿 観音寺」において開催されました。

自分は開業から約2年が経とうとし、「このままで良いのだろうか…」と漠然とした不安を感じていたことから、解消につながればと思い参加しました。所用のため1日目の夕方からの参加でしたが、再認識することが多く、特に継続的に研修を受けることで、今まで気付かなかった新たな発見ができた研修でした。

新たな発見の1つ目は、ケーススタディ(演習)を繰り返し受けることで、コンサルタントとして成果を出す重要性と自身の成長を感じられたことです。今回の事例となった企業は、5年ほど前の研修でも取り上げていた企業でした。その時の企業状況は、収益は改善傾向にあるものの財務状況は悪く、どのように経営を進めるべきかという状況でした。けれども今回の講師の一人、岩倉先生による5年間の継続支援によって業績が改善され、今後の新たな取り組みを考えるという状況になっていました。コンサルタントとして、このような目に見える成果を出さなくてはならないと、実例をもとに示された感じがしました。

また、5年前のケーススタディでは、何を企業へ提案したら良いかわからず、説得力のない発表をした苦い記憶が残っています。今回は周りの助けもあったせいか、何とか発表することができ、少しは成長できているのではと感じることができました。

ただし、今ご支援している企業に対して、果たしてここまで深く考えてアドバイスしているのかと再考させられました。繁忙から場当たりの対応や準備不足になっている気がし、本気で取り組む必要があると反省しました。

もう1つの新たな発見は、学習の重要性と香川県協会の良さを改めて感じたことです。山下会長の話す内容はいつもと似ているものの、こちらの状況や悩みが変わっているため、気になる点や響く点が違っていました。特に学習の重要性を話された時は、学習不足を痛感するとともに、「お金につながる学習以外は趣味」とのお言葉に、プロのコンサルタントとして目的意識や成果へつながる学習が必要だと痛感しました。

また香川県以外の参加者も多く、地域における診断士の状況が異なることがわかりました。他県ではこのような研修はほとんどなく、診断士の業務も少ないと伺いました。香川のような恵まれた環境に感謝するとともに、学習と実務経験による成長を続けることで、お客さまのお役に立てるコンサルタントになれるよう、決意を新たにしました研修でした。

最後に、夜のコンパで山崎先生の広範な知識をもとにした考察を伺った際、「昼の研修も濃かっただろう」とのを思いが浮かび、何とか調整して参加すべきだったと後悔したことをお伝えさせていただきます。



観音寺にて参加の皆さまと



「管理者課題別研修:財務力」に参加して

有限会社 井上誠耕園 総務部 総務課
森下 大輔

はじめまして。今回、管理者課題別研修「管理者が身につけるべき財務力」に参加させていただきました、有限会社井上誠耕園の森下大輔と申します。

社内では総務部総務課に所属し、対外折衝や文書や用度品の管理、社内各部門の業務サポートなどを担当しております。

今回、本研修に参加することになったきっかけは、社内の管理会計導入に携わった経験から、近い将来に自分で経営分析ができる知識や能力を身につけたいと漠然と思っていた時に、この研修の参加者募集を知ったからです。

私はこれまで経理の経験はなく、会計についてほとんどわかりません。B/S と P/L の見方がほんの少しわかるだけで、そこからどう経営分析につなげていくのか、全くわかりませんでした。

今回の研修では、B/S や P/L の見方から始まり、C/F の見方や B/S・P/L・C/F の財務三表を使って、どのように経営分析を行っていくかという経営分析の基礎となる部分を、講義だけではなくグループワークや演習なども使ってわかりやすく教えていただきました。

今回、私が学びたかったことを教えていただき、とても有意義な研修となりました。しかし、自分で経営分析ができるようになるまでには、まだまだ学ぶことがたくさんあります。これからは経営分析ができる上司から指導を受けながら、しっかりと復習をして必要な知識や経験、能力を自分の身につけていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の研修で優しく丁寧に指導してくださった中井先生、研修に参加する機会を与えてくださった会社と上司の皆さま、ありがとうございました。



グループワークを交えた研修



参加者の集合写真

2015年度「四国ブロック会議」 in 徳島

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
事務局 八木 知英子

2015年10月9日(金)徳島市にて、「四国ブロック会議」が開催されました。

東京本部からは福田会長、野口専務理事、菊島氏の3名がご臨席。今年の主催県である徳島からは吉田会長、向井副会長、垣内理事の3名、愛媛より上田副会長、山本事務局長の2名、高知より宮田会長、森永専務理事の2名、そして香川から立川理事と八木の2名が出席しました。

本部報告(質疑応答含む)として、マイナンバー対応と、バッジデザインの選定についての説明がありました。今後、各県の意向を踏まえたうえでデザインを決定し、診断士のブランド化を進めていくとのことです。

その後、各県協会活動状況報告があり、情報交換・意見交流が盛んに行われました。

会議後の懇親会では、徳島県の会員の皆さまが多数お越しになり、和やかに交流を深めていらっしゃいました。

そして懇親会后、徳島の皆さまのサプライズ企画で、何と(!)「阿波踊り会館」へと移動。診断士の先生方がステージ上でステップを踏むお姿を拝見でき、胸があたたかくなりました。徳島の皆さま、心に残る「おもてなし」をどうもありがとうございました。

※ ブロック会議とは、全国を8つのブロック(北海道・東北、北関東・信越、南関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄)に分け、隣接する県協会相互間における活動の情報交換を行うこと等を主な目的とする会議。四国ブロックは四国4県で主催を持ち回りして開催。



阿波踊り会館にて、踊りを体験される先生方



「経営コンサルタント養成講座2015」を受講して

一般社団法人 東京都中小企業診断士協会 会員
株式会社サクラ前線 代表取締役 櫻田 登紀子

私が山下益明会長と初めてお会いしたのは、2015年1月に神奈川県で開催された「ステップアップ研修(南関東ブロック)」です。この研修で、山下会長からの「診断士は3千万円稼ぐのが当たり前」「売上は社会のお役立ち度」といったドストレートな教えに、目からウロコが落ちました。その後も9月に香川県での「スキルアップ研修(四国ブロック)」を受講。これに続き11月の本講座を受講したのです。「香川で診断士のあるべき姿について考えよう！」と呼びかけた結果、東京協会の仲間達が5名も参加してくれました。

本講座は、山下会長の講義「成長し続ける本物のコンサルタントを目指そう！」から始まり、香川県協会きっての熱血診断士、岩倉正敏理事による「実践ケーススタディ」へと続き、香川県協会のエース、小島仁理事と森昭博理事による講義「私のプロコン活動」で1日目が終了しました。宿での美味しい夕食と部屋での懇親会では、「診断士がいかにして社会の役に立つべきか」について夜が更けるまで熱い議論が続きました。

2日目は、山梨からいらした経営品質協議会インストラクターの大館健児講師による講義「経営品質向上プログラムを活用して支援品質を高める！」で経営の基本と実践について学びました。

2015年はラグビー日本代表がW杯で好成績を収めたことが印象に残ります。世界の強豪国と互角に戦えるチームを作りあげたヘッドコーチのエディー・ジョーンズ氏が最初にしたことは、選手のマインドセットを変えたことだそうです。選手自身が「世界で戦えるような選手になりたい」という強い気持ちを持ち、勝つための明確なビジョンと戦術を考え抜いた。私はかつての日本チームと同じでした。診断士として低いレベルのぬるま湯につかっていた自分を痛感し、この講座をきっかけに「変わらなければいけない！」と本気で考えています。

2016年は本講座の教えを実践し、3年後には日本の社長の平均年収である3千万円の売上を達成する決意を新たにしました(がんばろう！)。



2日目参加者の集合写真



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 清水 謙伍

はじめまして、2015年11月1日に入会させていただきました。清水謙伍(しみずけんご)と申します。よろしくお願いいたします。

私は、生まれも育ち(大学進学を除いて)も香川県の29歳です。また仕事では、香川県に本社を置く建設機械メーカーへUターン就職し、現在に至ります。

診断士登録までの経緯としては、もともとは、大学にて経営工学(=IEなど)を専攻しており、現場改善などの“ものづくり”に興味を持っていました。そして、当時の友人が大学在学中に診断士を取得し、その友人からの話でこの資格の存在を知りました。

それからは、資格の存在は知りつつも頭の隅においたままという日々が続きましたが、2年後(社会人2年目の時)に、将来の自分の強みになればと考え、診断士の受験を決意しました。その結果、予定よりも時間と費用がかかりましたが、4年間の学習を経て、合格できました。

現在の業務は、“ものづくり”における、生産管理に関する業務と工場に対する総務業務に従事しています。一見すると、診断士(=コンサルティング)とは程遠い業務内容ですが、“ものづくり”を軸として、診断士の実力を高めることで、業務へのアウトプットを高めていきたいと考えています。また将来的には、信頼面と年商面の両面で、社会から必要とされる診断士になりたいです。

また話はそれますが、私は、幼少から武道(=剣道)をしており、小柄で華奢な見た目とは裏腹に、大学卒業までは体育会系でした(※現在は、学生の時ほど稽古はできておりませんが…)。

そして最近は、“武道→武芸→戦”と“診断士→軍師→戦”という少し無理矢理な連想もあって、“戦国時代”にハマっております。そのため、2016年大河ドラマも楽しみにしています。

よって今後の協会においては、①まだギリギリ20代という“若さ”と、②上述の“志”、そして、③武道を通じて鍛えた“精神力”を強みに、努めさせていただきます。

諸先輩からのご指導・ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

香川県プロフェッショナル人材戦略拠点が設置されました

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
理事 梅澤 秀樹

2015年12月1日、かがわ産業支援財団内に「香川県プロフェッショナル人材戦略拠点」が設置されました。

この拠点は、攻めの経営をする中小企業が成長戦略を展開する際に必要となる人材と都市部におけるUターン、Jターン、Iターンを希望する有能な人材とのマッチングをサポートすることを目的としております。

先生方のご相談の中で、経営管理者層の人材が必要であるとか、新市場進出や新商品開発のための人材が必要である等、人材に関するニーズがございましたら、ぜひとも下記の拠点まで、ご連絡くださいませ。

ご利用をお待ち申しあげております。

【所在地】

〒761-0301

高松市林町 2217-15 香川産業頭脳化センタービル 1階

電 話 087-867-3520 F A X 087-869-3703

E-mail : jinzai@kagawa-isf.jp

マネージャー 梅澤秀樹



診断かがわ第66号(新年号)

2016年1月14日発行

発行人	会長	山下 益明
編集人	広報企画事業部	梅澤 秀樹
〃	〃	立川 敦史
〃	〃	溝渕 善彦
〃	〃	森 昭博

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

TEL/ 087-814-6456 FAX/ 087-840-0321

メール mail8@shindan-kagawa.org

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org>

〒761-0301 香川県高松市林町 2217-15 香川産業頭脳化センター402